● 病理診断科紹介

病理診断とゲノム診療で地域医療と個別化医療に貢献



部長 黒田（くろだ） 一（はじめ）

当科は、がんを中心とした病理診断を担い、各診療科と密接に連携しながら、患者一人ひとりに最適な治療方針の決定に貢献しています。術中迅速診断、細胞診、免疫染色に加え、次世代シークエンサーを用いた遺伝子解析などの先端技術を駆使し、地域医療の質向上に寄与しています。また、研究・教育活動にも積極的に取り組み、次世代の医療人育成にも力を入れています。

実　績

年間約 5,000 件の病理組織診、3,000 件の細胞診、300 件の術中迅速診断、100 件のゲノム診断を実施しています。専門医資格を有する複数の病理医が診断にあたり、乳腺、婦人科、消化管、呼吸器、泌尿器など幅広い領域の疾患に対応しています。

また、地域医療機関からの紹介症例やセカンドオピニオンにも柔軟に対応し、高度で信頼性の高い病理診断を提供しています。

研究・その他

HER2 などの分子マーカー解析や、腫瘍浸潤リンパ球を含む腫瘍免疫微小環境の研究に取り組んでいます。さらに、希少腫瘍の症例報告や乳腺腫瘍の分類精緻化を通じて国際共同研究にも参画しています。次世代シークエンサーを用いた分子病理学的解析の臨床応用を推進し、診断および治療選択の両面における有用性を示しています。

学会発表や論文発信も積極的に行い、病理診断の質向上と医学教育の発展に貢献しています。

● ヘルスケアセミナー開催報告

令和８年３月13日（金）に開催されたヘルスケアセミナーでは、当院から歩いて３分程のところにある「すこやかプラザあだち」から福祉部 高齢者施策推進室 医療介護連携課の渡邉和広様にお越しいただき、『在宅療養』についてお話いただきました。

「すこやかプラザあだち」が行っている活動の紹介から始まり、医療・介護連携の研修会の概要、区民健康まつりの紹介などがありました。

在宅療養のお話では、在宅療養のメリットや多職種チームケアの説明、相談先として、ケアマネージャーや地域包括支援センターの紹介もありました。

参加者から「こんな時はどうしたらいいか?」などの質問もでておりました。

当院のヘルスケアセミナーは毎月第２、第４金曜日の13時～13時30分に正面入口隣のラウンジにて開催しております。健康や福祉についてなど、暮らしに役立つ話も多いので是非患者さんやご家族の方にご案内ください。予約不要です。





Topics

広報誌トピックス



東京女子医科大学
附属足立医療センター
Tokyo Women's Medical University
Adachi Medical Center

2026
若草号
Vol.03

Contents

- 第44回城東地区 医療連携フォーラムのご報告
- 新任部長挨拶
- 診療科紹介「泌尿器科」
- 病理診断科紹介 ヘルスケアセミナー開催報告



第44回城東地区 医療連携フォーラムのご報告

令和８年２月18日（水）看護学校大講堂に於いて第44回城東地区地域連携フォーラムが開催され、院内外より多数の参加があり、盛況のうちに会は終了いたしました。

セッション１では、「前立腺がん、なぜ増えている？～正しく知って早期発見～」について、東京女子医科大学病院泌尿器科の高木敏男教授からご講演をいただきました。

前立腺がんが男性がんの第１位であることや食事の欧米化がリスク因子となっていることをお話いただき、健診時のPSA値で精査や治療が必要と判断された場合は焦らずに専門医に紹介することを推奨されておりました。

引き続きセッション２では、「進化する心臓病の外科治療 心不全パンデミックに備える地域医療連携」について、当院心臓血管外科の梶本完教授が講演しました。

かかりつけ医との連携が重要であることや早期退院・社会復帰のための内視鏡下低侵襲手術や新しい治療法であるTAVIの紹介がありました。

懇親会では、地域の先生やメディカルスタッフの方と当院職員が和やかに談笑する姿が見受けられました。今回のフォーラムをきっかけとして今後さらに地域との連携が密になることを期待しております。

次回は、2026年７月開催予定です。

プログラム

総合司会：東京女子医科大学附属足立医療センター　副院長
　　木所　篤子 看護部長
開会挨拶：東京女子医科大学附属足立医療センター　病院長
　　城東地区医療連携フォーラム　代表世話人
　　塩沢　俊一 先生

セッション１ Sponsored Lecture
19：35～20：05

テーマ『カリキュラムコード 65：排尿障害（尿失禁・排尿困難）』
座長：足立区医師会理事　橋爪　敏彦 先生
演題「前立腺がん、なぜ増えている？～正しく知って早期発見～」
東京女子医科大学病院
泌尿器科教授　基幹分野長　高木　敏男 先生

セッション２ Medical Educational Session
20：10～20：40

テーマ『カリキュラムコード 12：地域医療』
座　　長：東京女子医科大学附属足立医療センター
　　副院長　高木　博 先生
演題「進化する心臓病の外科治療
**　　心不全パンデミックに備える地域医療連携」**
東京女子医科大学附属足立医療センター
心臓血管外科　教授　梶本　完 先生

閉会挨拶：20：40～　足立区医師会理事　橋爪　敏彦 先生





● 新任部長挨拶



産婦人科　部長
中林（なかばやし）　章（あきら）

ハイリスク周産期医療と鏡視下手術の充実に向けて

このたび、2025年12月1日付けにて足立医療センター産婦人科教授を拝命いたしました中林　章と申します。医師30年目という節目の年にこのような大役を賜り、身の引き締まる思いであります。

足立医療センターには6床の母体胎児集中治療室（MFICU）と15床の新生児集中治療室（NICU）があり、地域母子医療センターとして多くのハイリスク妊婦に対応できる体制を維持してまいります。また、私が専門とする腹腔鏡・子宮鏡・ロボット支援下手術といった鏡視下手術にも積極的に取り組んでまいります。経験豊富な上級医と若手医師がそれぞれの力を発揮できるよう、診療体制の充実に努めてまいります。

近隣の先生方が患者さんに自信をもってお勧めいただける病院となるよう邁進する所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



呼吸器外科　部長
宮野（みやの）　裕（ゆたか）

みなさま、こんにちは。2026年2月1日付で呼吸器外科診療部長を拝命いたしました、宮野　裕と申します。東京女子医大の呼吸器外科（第一外科）に入局し、関連病院等で、一貫して呼吸器外科医として臨床・研究・教育に携わってきました。

令和 6 年に足立医療センター赴任後は特に肺癌含めた悪性腫瘍の治療に重点を置いてまいりました。一昨年の手術件数170件のうち悪性腫瘍の手術は107例でしたが、昨年も 104 例と 100 件を超えました。ほとんどが鏡視下に行う胸腔鏡手術で患者様の負担が少ないのが特徴です。専門は喀血の治療（呼吸器インターベンション）ですが、肺癌・膿胸・気胸など広く呼吸器疾患の患者さんを診療してまいります。また、大学附属病院の使命である外科医・専門医育成に向けた受け入れも積極的に進めていく所存です。区東北部の呼吸器診療のお役にたてるよう、精勤したいと思います。よろしくお願い申し上げます。



新生児科　部長
山田（やまだ）　洋輔（ようすけ）

2025年8月に新生児科部長を拝命いたしました、山田　洋輔と申します。当科は開設以来一貫して、「この地域の周産期医療の最後の砦となること」、「新生児・小児の呼吸器診療におけるトップランナーであること」を目標に、診療・運営を行っております。

周産期医療においては産科と協働し、周産期センターとして診療にあたっております。一部の外科系疾患を除き、当院で診療を完結することが可能であり、在胎週数や出生体重による制限は設けておりません。

また、周産期医療以外では呼吸器診療を専門としており、特に先天性喘鳴の診療を得意としております。小児科と連携し、気管支鏡検査など専門的な診療にも対応しております。近隣の皆様におかれましては、お困りの母体・胎児・新生児・小児の患者様がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にご相談ください。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

● 泌尿器科紹介



泌尿器科　教授
近藤（こんどう）　恒徳（つねのり）

われわれ泌尿器科では、泌尿器疾患全般にわたり診療を行っておりますが、その中でもがんの患者さんを多くご紹介いただいております。腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がんが代表的な泌尿器がんですが、とくに腎がんの手術件数は全国3位となっております。また代表的な多くの手術が Da Vinci によるロボット手術に代わっており、2025年は170例を超えるロボット手術を泌尿器科だけで行っております。これまで1台しかなかったため、手術待機時間がどうしても長くなっておりましたが、本年3月末から2台目の Da Vinci が導入されました。これによりより多くのロボット手術を行う事ができるため待機期間が短くなり、ご紹介いただいた患者さんに対してもできるだけ早期に手術を受けていただけるようになります。

また手術だけではなく免疫チェックポイント阻害剤を含む薬物治療も積極的に行っており、最新の治療を行うようにしております。今後は、去勢抵抗性前立腺がんに対する核医学治療として PSMA を標的としたルテチウム（177Lu）も実施できるよう病院全体で準備を開始したところです。

また薬物療法に抵抗性の前立腺肥大症に対しては、これまで経尿道的前立腺切除術が標準手術として行なわれておりましたが、出血や感染症などの侵襲が大きいことが問題でありました。そこで低侵襲手術として尿道吊り上げ術（ウロリフト ®）を導入しました。この方法は現在米国では最も行なわれる外科治療となっております。入院期間も１週間から３日に短縮されており、すでに60名以上の方が治療を受けています。このまま薬物を継続する事に抵抗を感じておられる患者さんや、薬物治療でも症状の改善が十分では無い患者さんに有効出あることを確認しております。

今後とも区東北部の泌尿器科診療に貢献させていただけるよう、最新の治療を積極的に採用することで、患者さんに満足していただけるような治療を提供できるよう日々努力しております。ご紹介していただく患者さんはすぐに予約が取れるようにしております。症状の強い方、緊急の方は御連絡をいただければ当日でも拝見させていただきます。これからも患者さんをご紹介いただけましたら幸いです。





理　念　センターは、「至誠と愛」の心をもって人に接し、最善の医療を実践し、社会に貢献するとともに全人的医療人を育成することを理念とする。

基本方針

1. 患者視点に立った、きめ細やかな温かい心の通った医療を実践します。
2. 先進医療の推進や高度医療の提供に尽力し、チーム医療と質の高い安全な医療を提供します。
3. 医療連携を通して、地域住民の健康推進に貢献します。
4. 創造的知性と豊かな人間性を有する医療人を育成します。

財団法人日本医療評価機構
認定病院